

# ひかりのこ

7月園便り

聖ミエル幼稚園

2018年6月19日

## 月主題：交わる

### 『成長する子どもたち』

6月も半ばとなり、夏が近づくとはいきや、先週は最高気温が12度、13度という低温が続きとても寒いなかで子どもたちは運動会の練習を行っていました。

年少さんは初めての運動会。先生たちからの報告も「今日はまっすぐに並べました。」から始まりましたが、日がたつにつれ、「大きな声でお返事ができました。」「自分の立つ位置にさっと行けるようになりました。」「楽しんでお遊戯をしています。」と変わってきました。時々、こっそり練習を見ているようですが、とってもかわいらしいです。

年中さんは、お遊戯をととても楽しんでるようです。そして、自分の動きをきちんと頭に入れていて、とてもしっかりしています。それとともに、年長さんのかっこいい姿をあこがれのまなざしで見えています。

年長さんは、難しいよさこいやりレーの動きなど、覚えることが多く、最初は私たち教員も「大丈夫だろうか。間に合うかな。」と心配していましたが、先週の時点でも、結構いい感じの動きになってきています。

こうしてみると、先生方の指導の力に「すごいなあ。さすがだなあ。」と思うとともに、子どもたちの吸収の速さに感心します。そして、何よりも「仲間とともに」一つのものを作り上げることを、とても楽しんでいることが分かります。

選手宣誓や、縦割りクラスの応援合戦も見ものです。年長さんの勇姿や、クラスの子どもの元気な声に、見ている私も気持ちワクワクします。

このように一つの行事を通して、子どもたちは大きく成長していくのです。

私事ですが、先日私に初孫ができました。男の子で、2600グラム、と小粒です。おても足もびっくりするくらい小さいです。目は生まれた日から開けていたのですが、どこを見ているのか、ほんやりしています。でも、人の話し声は、よく聞いています。とっても小さくて、無垢で、文句なしにかわいいです。

おばあちゃんとなった私は、もうメロメロです。そして、これからどんな人に合って、どんな経験をして、どのように大きくなっていくのだろうと思い、わくわくします。今は、お母さんや家

族の愛情をたっぷり身に受けて、もう少し大きくなったら、ミカエルの子どもたちの様に、「幼稚園」や「保育園」という小さな「社会」に世界を広げていくのでしょうか。

生まれてからすぐに、いえ、おなかにいる時からすでに人の成長は始まっています。改めて、この乳幼児時代に、子どもたちがたくさんの愛情と適切な環境の中で育ってほしい、と心から願います。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「お天道様が見ている」

最近あまり聞かなくなりましたが、親が子どもを戒めるとき、「お天道様(てんとうさま)が見ている」と言ったものです。今思うと大切な言葉だと思えます。多少悪いことでも、人が見ていなければ大丈夫と思ったら大間違い、太陽は空の上で全てをお見通しなのです。私も子どものころ、そう言われてドキッとしたことがあります。

このところ、政治の場で起こっていることを見て、この言葉を思い出します。最高学府を出て、国の中枢の省庁で働く人々が、いとも簡単にウソをつき、ものごとを隠す姿を見せつけられました。一番気になるのは、子どもたちがこういう大人の姿を見てどう感じるかということです。

言うまでもなく、人として善悪の判断をつけられるかどうかは、他者と共に生きる上で欠くことのできないものです。そして判断の基準とは、必ずしも法律に触れることや、人に迷惑をかけることだけではないはず。法にも触れず、人に迷惑をかけないけれども、やってはいけないこともある。悲しいかな、そう言っている私も決して悪いことはしないと切り切る自信はないのですが、その辺をさりげなくわきまえて行動できる人は、粹で素敵だと思うのです。

子どもは親だけではなく、社会で育てると言われる時代になりました。だとすれば、大人はいろいろな場面で「正しさ」を子どもたちに示す責任があります。大人こそ、「お天道様が見ている」と堂々と言えるように身を正したいものです。

チャプレン 司祭 下澤 昌